第1章　基本的事項

第1節　作成の趣旨

平成20年3月に策定した北海道医療計画（以下、「道計画」という。）では、計画の中核をなす疾病・事業それぞれの医療連携体制の構築とその推進について、地域単位で保健所が市町村、医療機関、関係団体、道民等と共に取組む必要があることから、道計画の策定に合わせ、第二次医療圏の中心となる保健所において、地域の実情に応じ、圏域ごとに「地域推進方針」を作成していますが、道計画を平成25年3月に一部改訂したことにより、地域推進方針についても、平成25年度に見直しを行ったところです。

しかしながら、現行の地域推進方針の期間は、道計画と同様に平成29年度までとなっており、平成30年度を始期とする新たな道計画の策定と合わせ、新たな地域推進方針を作成する必要があります。

このため、現行の地域推進方針における目標の達成状況や施策の進捗状況の評価などを行い、5疾病・5事業及び在宅医療それぞれに係る医療連携体制を構築し、保健医療福祉圏域連携推進会議において、新たな留萌圏域における地域推進方針を作成し、円滑な推進を図ることとしました。

第2節　地域推進方針の名称

第2次医療圏の名称を冠し、「北海道医療計画［留萌地域推進方針］」とします。

第3節　地域推進方針の期間

道計画の期間に合わせ、平成35年度までの6年間とします。（平成30年度から平成35年度までの6年間）

ただし、道計画は、在宅医療その他必要な事項については、3年ごとに調査、分析及び評価などを行い、必要がある場合は計画を変更するものとしていますので、地域推進方針についても同様の取扱いとします。

第４節　地域の概況

1　地勢と交通

（1）地域的状況や特殊性

留萌圏域は、北海道の北西部に位置し、南北130キロメートル、東西60キロメートルの南北に長い地域です。

北は天塩川を挟んで宗谷地域、南は増毛山地を挟んで石狩地域、東は天塩山地を挟んで上川地域、北空知地域にそれぞれ接して、西は広大な日本海となる臨海山村地域です。

当圏域の総面積は、3,445.79平方キロメートルで、北部には『利尻礼文サロベツ国立公園』、中南部には『暑寒別天売焼尻国定公園』を有し、離島等の景勝地を有する自然に恵まれた地域でもあります。

気候は、対馬暖流の影響で内陸部に比べ温暖ですが、南北に長いため年間の平均気温は、北部で5～6℃、中部で6～7℃、南部で7～8℃と気温の差があり、また、日本海と山岳地帯を控えているため、前線や台風の影響により雨量は秋から冬にかけて多い傾向にあります。

平均積雪量は、1メートル前後ですが、内陸部では2メートルに達するところもあり、冬期間は日本海特有の北西の季節風が地吹雪を起こし、視界不良や吹き溜まりによる交通障害の原因となっています。

（2）交通機関の状況

ア　道路

国道231号（札幌～留萌）、国道232号（留萌～天塩）及び主要道道稚内・天塩線が海岸線に沿って、南北に走り、広域観光ルート『日本海オロロンライン』を形成しています。

このほか、国道239号（士別～苫前）、国道233号（深川～留萌）の2路線があり、それぞれ道道、市町村道と連絡され、他圏域と結ばれています。

また、現在、高規格幹線道路（深川～留萌）の建設工事が進められており、完成すると、旭川、札幌方面への所要時間の短縮が図られます。

イ　鉄路

ＪＲ留萌線（深川～留萌）の1路線が運行されています。

ウ　航路

羽幌港から焼尻島・天売島へフェリーが運航され、離島住民の重要な交通手段となっています。

エ　他圏域との連絡

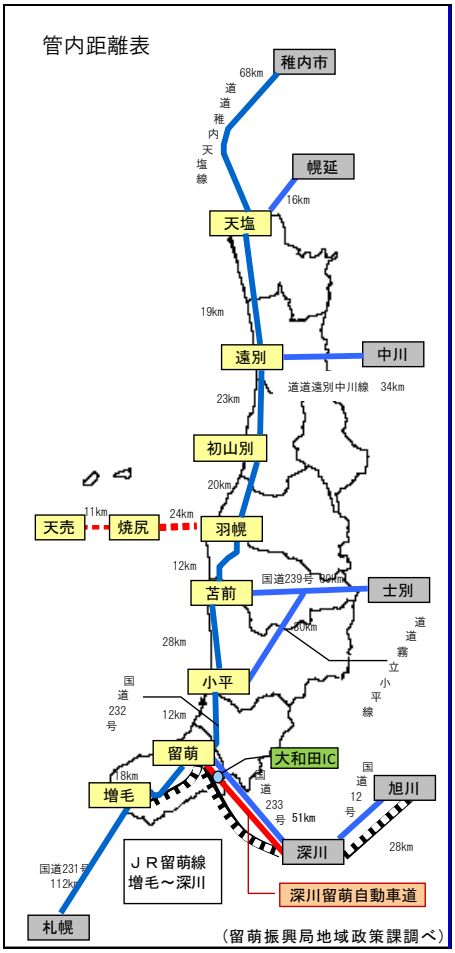
留萌圏域から留萌圏域以外の都市に、比較的短時間で移動できることが特徴となっています。

留萌市から旭川市まではバスで約2時間、鉄道で約1時間30分の距離にあります。札幌市まではバスで約3時間、鉄道で約2時間30分です。

留萌圏域内の市町村間で移動するより、他圏域に移動する方が短距離であるという地域もあります。

例えば、留萌圏域最北に位置する天塩町の場合、留萌市まではバスで約3時間かかりますが、道北圏域にある稚内市まではバスまたは鉄道を利用して約1時間半で到着します。

天塩町や遠別町でも、留萌市に移動するより稚内市に移動する方が、公共交通機関の種類が多く、移動時間も短く、便利な状況にあります。



移動手段として自家用車を使用する場合は、苫前町や羽幌町から土別市や名寄市まで約1時間30分～2時間、増毛町から札幌市まで約2時間30分で到着します。

このように、他圏域と比較的短時間で往復できる地域では、通院や買い物などについて、近隣の都市への流出が見られます。

（3）生活圏

産業、経済、行政、文化、医療、交通等の各分野の中心的役割をはたす留萌市を核として形成されていますが、南北に長い地理的条件から、日常の生活圏としては、天塩町を中心とした北部、羽幌町を中心とした中部、留萌市を中心とした南部の三地域になっています。

基幹産業は農業と水産業ですが、基幹産業の低迷等により若年層を中心とした人口の流出が見受けられます。

2　人口の推移

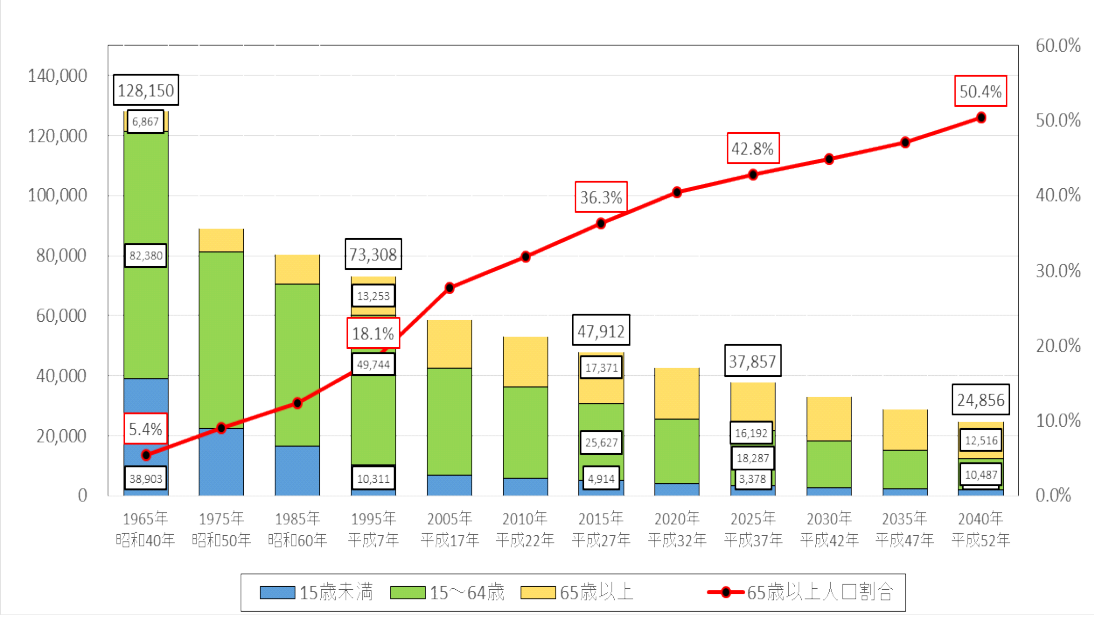
（1）人口構造

昭和40年度における留萌圏域の人口は128,150人で、その年をピークにその後減少傾向が続き、平成27年国勢調査では47,912人まで減少しています。

産業別人口割合によると、第1次産業の占める割合が全国平均より高く、農業、水産業がこの圏域の基幹産業といえますが、米の減反や農業の近代化による省力化、漁業経営の不振などから、第1次産業の就業者が大幅に減少した結果、第3次産業の従事者の割合が増加してきています。

国立社会保障・人口問題研究所による将来推計人口（平成25年3月推計）では、今後も出生数の低下などの要因で減少傾向が続き、平成27年から平成52年までの25年間に約2万3千人の減少が見込まれています。

［留萌圏域人口の推移及び将来人口推計］



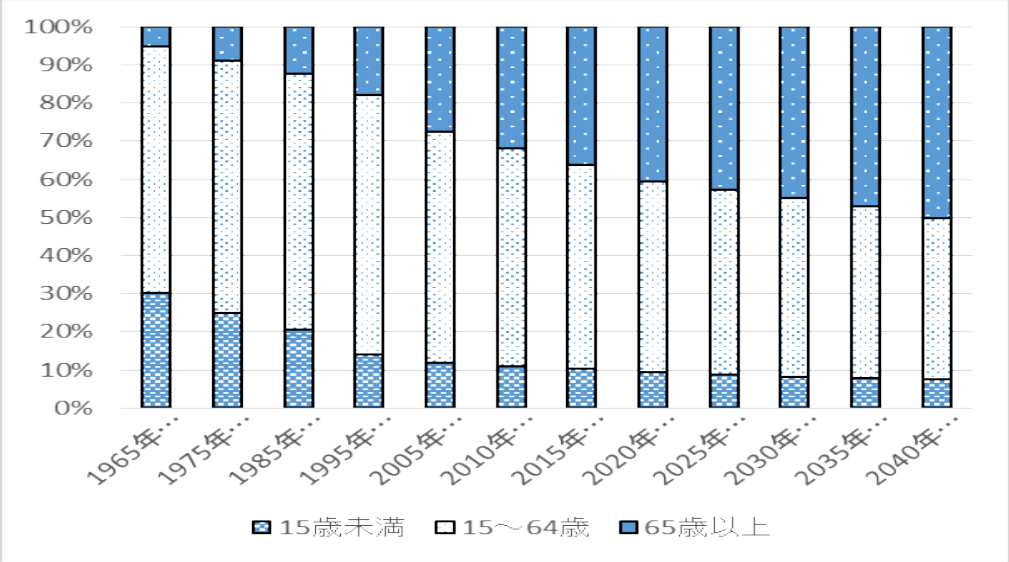
※　国勢調査及び国立社会保障・人口問題研究所による推計（平成25年3月推計）

（２）年齢三区分別構成割合

留萌圏域の年齢三区分別構成割合は、年少人口割合（15歳未満）、生産年齢人口割合（15歳から64歳）が減少しています。

65歳以上の老年人口割合は年々増加しており、平成27年国勢調査では36.3%となっており、全道の29.0%と比較してみても高い数値となっています。

［年齢三区分構成割合］



※　国勢調査及び国立社会保障・人口問題研究所による推計

（3）人口動態

ア　出生数

留萌圏域の出生数は昭和40年代の2千人をピークに、年々減少が続いており、平成27年における留萌圏域の出生数は270人となっています。

合計特殊出生率*1で見ると、平成27年では1.62であり、全国（1.45）や全道（1.31）よりも高い値となっています。

イ　死亡数

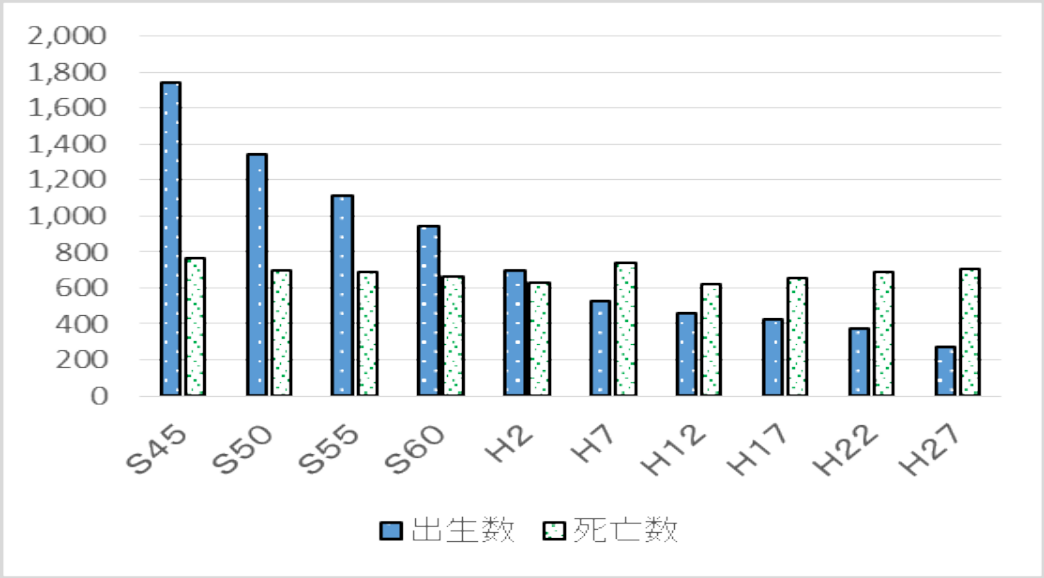
留萌圏域の死亡数は、年々増加傾向にあり、平成27年には706人となって

*1　合計特殊出生率：一人の女子が生涯に生む子どもの数に近似する指標

います。死因順位は第1位が、がん43.0%、第2位が心疾患25.8%、第3位が肺炎14.1%となっています。

周産期死亡数は1人、乳児死亡数は0人となっています。

[出生数及び死亡数の推移]



※　人口動態統計

第5節　患者の受療動向

1　調査の趣旨

道では、ほぼ5年に1回、国民健康保険等のレセプトデータを分析し、ある市町村に居住する患者がどの圏域の医療機関を受診しているか（流出率）、第二次医療圏内でまかなえる医療の割合はどのくらいか（自給率）などを把握するための調査を行っています。

2　調査結果の概要

平成26年度の患者受療動向では、留萌圏域の入院の自給率は63.3%で、全道の平均90.0%より低い数値となっています。同じく通院の自給率も87.6%で、全道の平均96.1%より低くなっています。

通院可能な医療機関が全市町村にあるのに対し、入院施設を有する医療機関のない市町村もあるため、入院自給率は通院自給率よりも低い数値となります。

過去のデータと比較すると、平成22年よりも入院の自給率が下がっており、年々、医療機関における医師、看護師不足等が深刻になっていることから、今後の推移に注目する必要があります。

［入院医療の自給率］　（単位　%）

区　　分	H18年5月	H22年4～12月	H26年
全道平均	88.8	91.2	90.0
留萌圏域	58.7	71.5	63.3

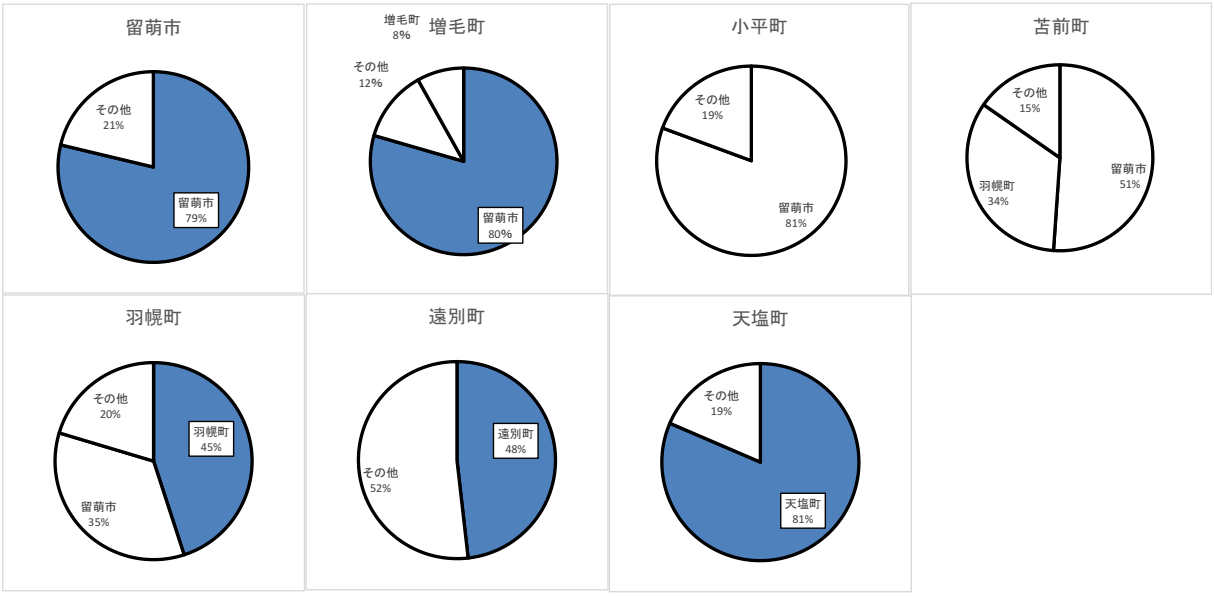
［通院医療の自給率］　（単位　%）

区　　分	H18年5月	H22年4～12月	H26年
全道平均	95.1	96.3	96.1
留萌地域	81.5	87.3	87.6

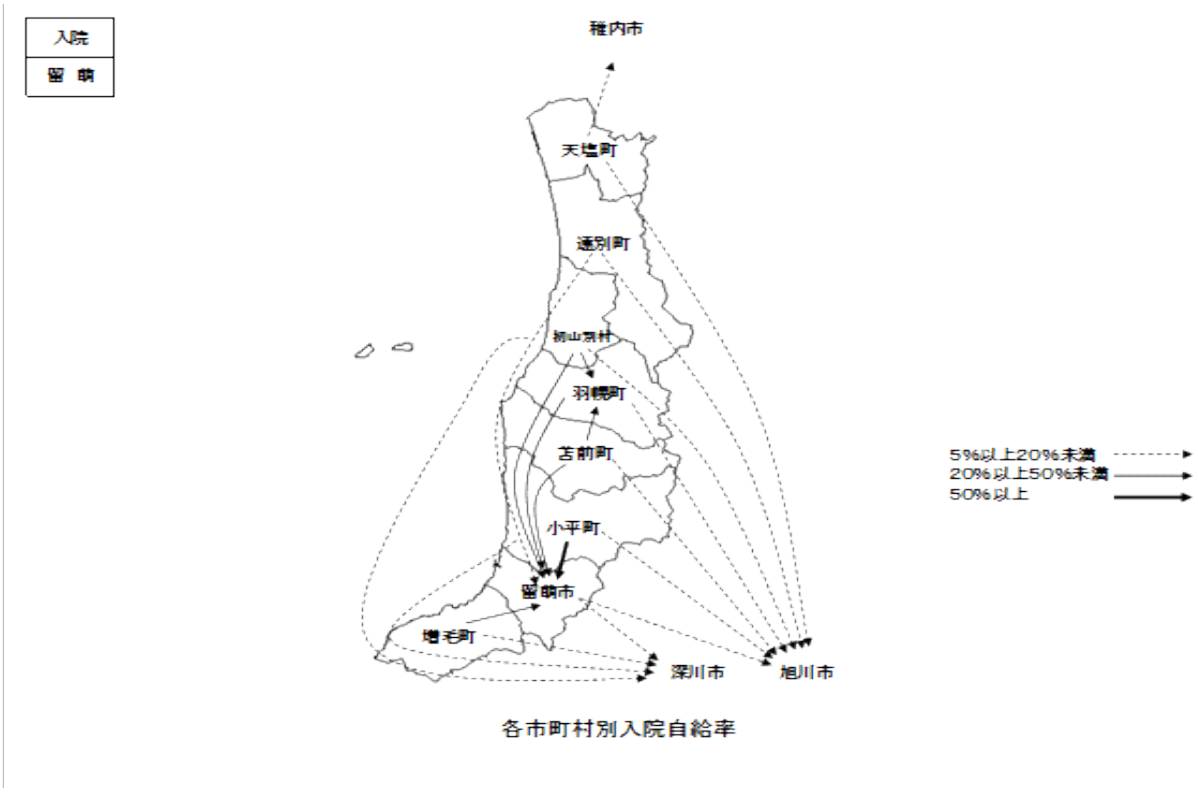
3　入院・通院医療に係る受療動向

平成28年4月診療分から平成29年3月診療分の12カ月分のレセプト数の割合を見ると、医療施設が整備された市に患者が集まる傾向となっていることが分かります。（図1、2）（対象としたレセプトは国民健康保険請求分であり、生活保護等の公費単独のデータ、あるいは自賠責、労災等、医療保険の対象でないものは含みません。）

（1）各市町村別入院自給率

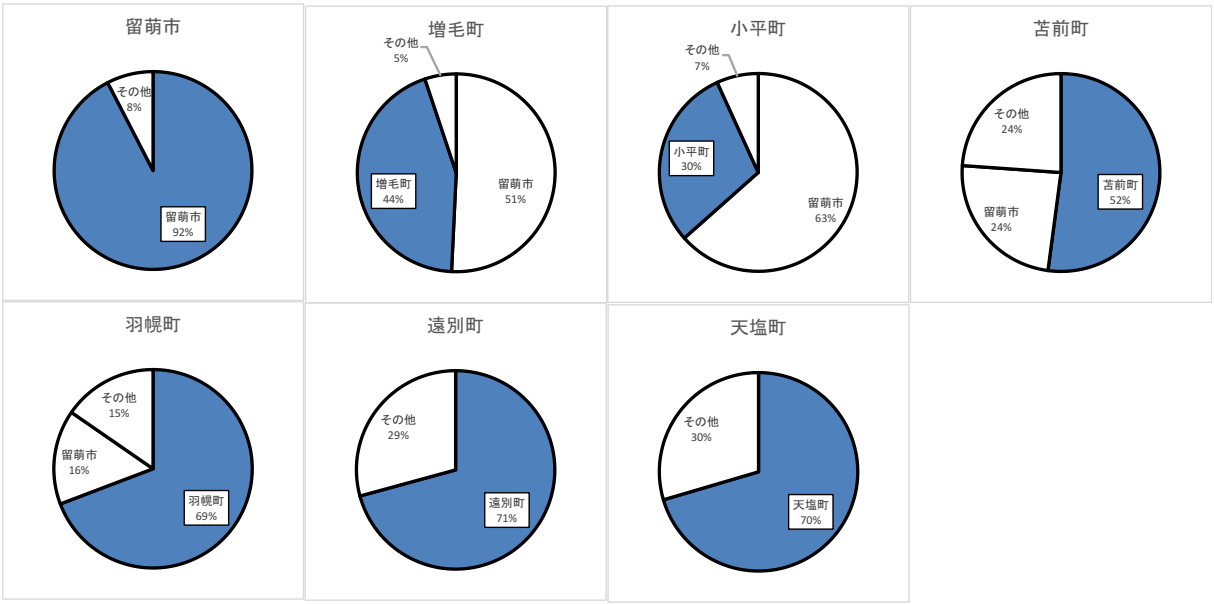


［図1］

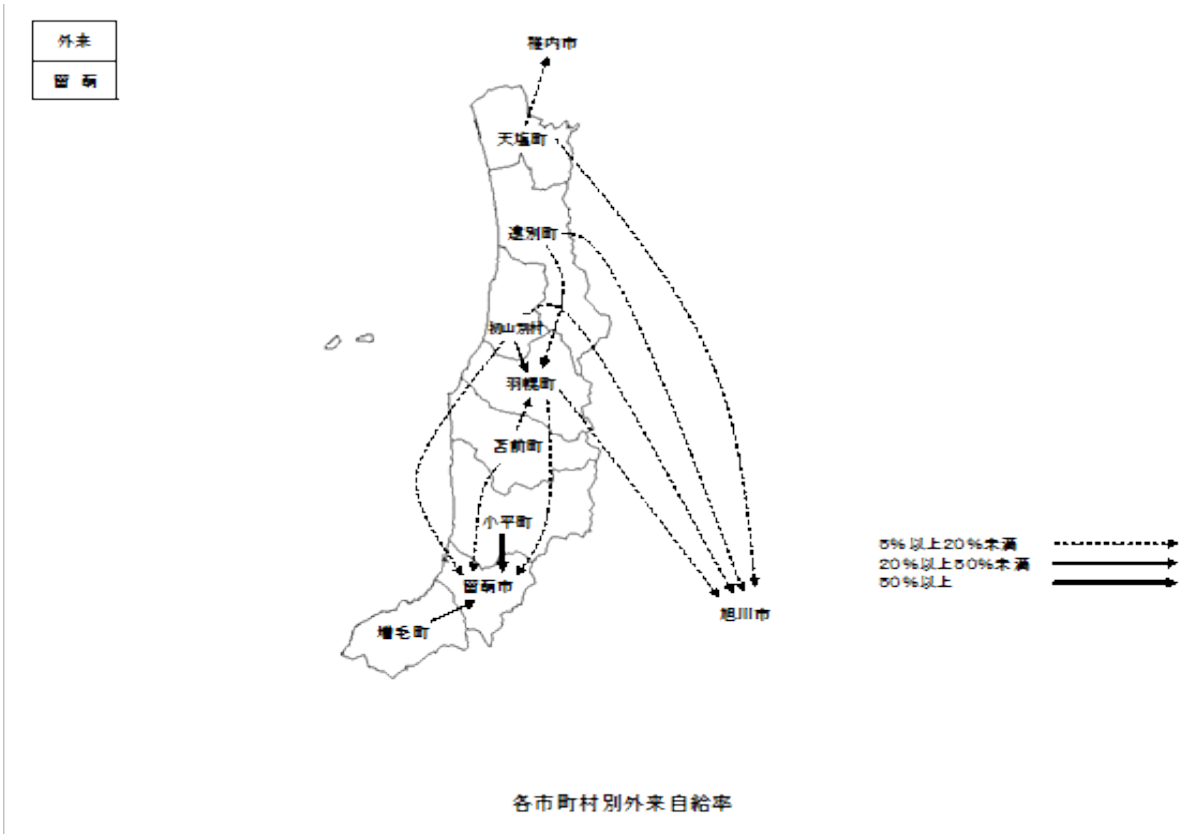


各市町村別入院自給率

（2）各市町村別外来自給率



［図2］



各市町村別外来自給率

第6節　医療提供施設の状況

1　病院

留萌圏域の病院数は、平成30年6月1日現在では、7か所となっています。
病床数は平成30年6月1日現在では、755床となっています。

［病院数の推移］　（単位　か所）

区　分	H25.10.1	H26.10.1	H27.10.1	H28.10.1	H29.10.1	H30.6.1
病院数	7	7	7	7	7	7

※　北海道保健統計年報及び留萌保健所企画総務課地域医療薬務係調べ

［病院病床数］　（単位　床）

区　分	総　数	精神病床	結核病床	感染症病床	療養病床	一般病床
H25.10.1	809	99	0	4	240	466
H26.10.1	809	99	0	4	240	466
H27.10.1	809	99	0	4	240	466
H28.10.1	809	99	0	4	240	466
H29.10.1	755	99	0	4	240	412
H30.6.1	755	99	0	4	240	412

※医務薬務課「病床数等調査」
※療養病床：一般病床、精神病床、結核病床及び感染症病床以外の病床であって、主として長期にわたり療養を必要とする患者を入院させるための病床のこと。
※一般病床：療養病床、精神病床、結核病床及び感染症病床以外の病床のこと。

2　診療所

留萌圏域の一般診療所数は、平成30年6月1日現在で、無床診療所（36か所）と有床診療所（4か所）を合わせて40か所となっています。

歯科診療所数は、平成30年6月1日現在で、無床診療所28か所となっています。

［診療所病床数］　（単位　床）

区　分	総　数	療養病床	一般病床
H30.6.1	62	0	62

※ 留萌保健所企画総務課地域医療薬務係調べ

3　助産所

留萌圏域には助産所はありませんが、全道では平成29年4月1日現在で、51か所あり、近年、増加傾向にあります。

4　薬局

留萌圏域の薬局数は、平成30年6月1日現在で、22か所となっています。

全道では平成29年3月31日現在で、2350か所あり、医薬分業の推進に伴い増加傾向にありましたが、平成28年度以降、鈍化しています。

5　訪問看護ステーション

留萌圏域の訪問看護ステーション数は、平成30年6月1日現在で、4か所となっています。

全道では482か所あり、増加傾向にあります。

第７節　医療従事者の年次推移

１　医師、歯科医師、薬剤師の状況

留萌圏域では、平成28年12月末現在で、医師68人、歯科医師26人、薬剤師71人となっており、平成18年と比較すると医師（84名）、歯科医師（32名）、薬剤師（78名）いずれも減少しています。

２　看護師・准看護師の状況

留萌圏域の看護師は、平成28年12月末現在で346人となっており、平成18年の271人と比較すると増加しています。

准看護師は、平成28年12月末現在で203人となっており、平成18年の295人と比較すると減少しています。

３　保健師、助産師の状況

留萌圏域では、平成28年12月末現在で保健師は54人、助産師は17人となっています。

平成18年の保健師63名、助産師16名と比較すると保健師は減少していますが、助産師は微増しています。

［保健医療従事者年次推移］　（単位　人）

区　分	医　師	歯科医師	薬剤師	保健師	助産師	看護師	准看護師
H18年末	84	32	78	63	16	271	295
H20年末	74	34	73	65	13	280	309
H22年末	74	31	75	54	10	301	246
H24年末	74	31	75	54	10	301	246
H26年末	71	30	83	62	14	334	239
H28年末	68	26	71	54	17	346	203

※　道北地域保健情報年報

［保健医療従事者数（人口10万対）平成26年末］　（単位　人）

区　分	医　師		歯科医師		薬剤師	
	実数	人口10万対	実数	人口10万対	実数	人口10万対
全　道	12,987	240.5	4,483	83.0	10,803	200.1
留萌圏域	71	145.7	30	61.6	83	170.4
留萌市	50	222.9	17	75.8	55	245.2
増毛町	1	21.6	2	43.1	2	43.1
小平町	1	29.6	2	59.2	－	－
苫前町	2	58.8	1	29.4	1	29.4
羽幌町	12	162.6	4	54.2	13	176.2
初山別村	1	80.6	1	80.6	－	－
遠別町	2	70.4	1	35.2	3	105.6
天塩町	1	29.3	2	58.7	5	146.6

※　道北地域保健情報年報

［保健医療従事者数（人口10万対）平成26年末］　（単位　人）

区　分	保健師		助産師		看護師		准看護師	
	実数	人口10万対	実数	人口10万対	実数	人口10万対	実数	人口10万対
全　道	3028	56.1	1,647	30.5	57,732	1,069.1	19,172	355.0
留萌圏域	62	127.3	14	25.8	334	685.6	239	490.6
留萌市	18	80.2	12	53.5	234	1,043.2	164	731.2
増毛町	5	107.8	－	－	6	129.3	12	258.6
小平町	4	118.3	－	－	4	118.3	7	207.1
苫前町	4	117.6	－	－	6	176.5	6	176.5
羽幌町	11	149.1	2	27.1	52	704.6	29	393.0
初山別村	2	161.3	－	－	3	241.9	－	－
遠別町	4	140.8	－	－	9	316.9	12	422.5
天塩町	7	205.3	－	－	20	586.5	9	263.9

※　道北地域保健情報年報

4　主な病院従事者の状況

留萌圏域では、平成28年10月1日現在で、管理栄養士10.0人、栄養士0人、診療放射線技師16.2人、臨床・衛生検査技師19.0人、理学療法士20.5人、作業療法士13.5人、となっています。

［主な病院従事者（常勤換算）］　（単位　人）

区　分	管理栄養士	栄 養 士	診療放射線技　師	臨床・衛生検査技師	理学療法士	作業療法士
全　道	1,134.3	108.8	2,487.8	2,475.2	3,694.6	2,507.9
留萌圏域	10.0	－	16.2	19.0	20.5	13.5

※「病院報告」（平成28年10月1日現在）による（常勤換算数値）

区　分	視能訓練士	臨床工学技　士	義肢装具士	言語聴覚士
全　道	214.9	1,382.4	1.0	862.5
留萌圏域	1.0	11.0	－	2.0

※「病院報告」（平成28年10月1日現在）による（常勤換算数値）

5　歯科衛生士の状況

留萌圏域の歯科衛生士は、平成28年12月末現在で14人となっています。
（平成18年度の数値はありません。）